



各診療科の特色

総合内科

外来、入院、紹介患者様の診療を主に従事しています。相談の内容は、不明熱、倦怠感、しびれ、体重減少、呼吸困難感などが多いです。開設から、悪性腫瘍、リンパ腫、リンパ増殖性疾患、菊池病、SLE、ループス脂肪膜炎、関節リウマチ、シェーグレン症候群、二次性肺高血圧症、膠原病肺、肺結核、結核性心膜炎、感染性心内膜炎など様々な疾患を診療する機会がありました。教育に関しては、ベッドサイドでの研修を心掛けています。実際の診療を通じて姿勢、プレゼンテーション、問題解決、危機管理、チーム医療などの教育を心掛けています。背景、病歴、身体所見から初期診断仮説形成し、検査や治療のリスクベネフィットを考慮し、各患者様に応じた適切な医療を大切にしています。どの専門に進んでも大切になる基本的な診療の型、姿勢を学んで頂きたいと思っています。一緒に診療・勉強できることを楽しみにしています。



副院長
総合内科部長
感染症内科部長
腫瘍内科部長
中村孝人

感染症内科

外来、入院患者様の感染症診療に関して、主担当科の診療を支援しております。また ICT(infection control team) として血液培養陽性症例の診療支援、抗菌剤適正使用の推進も行っています。教育に関しては、感染症内科は、先ず基盤としてジェネラリストとしての臨床力が必要と考えています。より良い感染症診療を実践するために、非感染症を鑑別することが必要です。総合内科と研修を兼ねることで、自己免疫疾患、悪性腫瘍、内分泌疾患、神経疾患等を診療する機会も多くなります。実際の診療を通じて姿勢、プレゼンテーション、問題解決、危機管理、チーム医療などの教育を心掛けています。一緒に診療・勉強できることを楽しみにしています。

腫瘍内科

胸部悪性腫瘍および原発不明がんなどの診療をしています。また外来、入院がん患者様の相談支援を随時行っております。近年、腫瘍診療は目覚ましい進歩を遂げ、従来の殺細胞性抗がん剤だけでなく、多数の分子標的剤や免疫チェックポイント阻害剤など使用可能となりました。腫瘍内科は、抗がん剤治療だけでなく、緩和治療、終末期医療に対峙する機会が多い科でもあります。基本的な腫瘍診療の型を習得するだけでなく、病いに対する配慮を忘れず、各患者様に応じた適切なチーム医療の実践を目指しています。一緒に診療・勉強できることを楽しみにしています。

腎臓内科

腎臓内科の領域は、腎炎、慢性腎臓病、急性腎障害、水・電解質異常、高血圧症、腎代替療法（血液透析・腹膜透析・アフェーシス・腎移植）など多岐にわたります。奈良県西和医療センター腎臓内科では、これら様々な腎疾患に対して研修医の皆様が自信をもって診療できるように、指導医・上級医が全員で研修教育に力を入れ、熱く丁寧な指導を心がけています。また当科では、腎疾患のみならず膠原病などの自己免疫疾患や脳血管疾患、内分泌疾患、血液疾患なども積極的に受け入れ、総合内科としての役割も担っていますので、多彩な内科疾患を数多く経験し、内科全般で役立つ基本手技のほぼすべてを身につけることができます。



腎臓内科部長
森本勝彦

学習面においても、上級医は研修医の苦手とする病態生理などに対して文献や UpToDate® を用いたカンファレンスを適宜開催しています。また、日進月歩する世界標準の医学知識を修得するために、ACP（米国内科学会）の問題集である MKSAP による勉強会を毎日開催しており、研修医のほぼ全員が医学知識の修得のみならず医学英語への苦手意識も克服しております。さらに、臨床現場以外での研修も推奨しており、研修医の皆様には内科関連の学会に積極的に参加することで医師としての視野を広げるとともに、重要な経験は上級医の熱い指導のもと、積極的に学会発表や論文作成をしていただいています（研修医が国際学会での発表をすることもあります）。

当腎臓内科はスタッフの年齢が若く、研修医の皆様と近い立場で同じ視野にいますので、研修医個々の望むフレキシブルな研修ができるとともに、食事会やレクリエーションなどを通じて精神面でも安全・安心な研修を心がけています。ぜひ、私たちと一緒に、長い医師人生の第一歩を楽しく踏み出してみませんか？心よりお待ちしております！

研修医の感想

- 毎週 1 回総回診があることで症例の整理と検討ができるため、1 症例について深く学ぶことが出来ました。腎生検や骨髄生検、髄液検査、中心静脈カテーテル留置など侵襲的な手技に関しても指導医の下で研修医が施行できるため、様々な手技を経験することが出来た点が良かったです。
- 日中の救急外来で診た患者をそのまま担当患者として診ることができるため、治療をどうするかなどを一緒に決めることができ勉強になりました。



循環器内科

奈良県西和医療センターの循環器内科は 12 名の医師スタッフと研修医が一体となり、様々な診療活動をしています。その内容は、救急医療をはじめとして、心不全などの集中治療（ECMO の管理もここで学びます）、心血管インターベンション治療（PCI や血管内治療の技術を助手として学ぶ）、カテーテルアブレーション治療（不整脈の読み方考え方をしっかり学ぶ）、心臓超音波検査や心臓 CT/ 心臓 MRI/ アイソトープ検査などの循環器画像診断、さらに循環器・呼吸器リハビリなど広範囲に渡ります。そのため、奈良県内では、最も人気のある循環器専門医の修練施設となっています。

毎朝 8 時からの CCU カンファレンス&新入院カンファレンスでは、日々の新入院患者のチェックと前日の救急外来で診療した症例のチェック、火曜日と木曜日の心カテ後に開催されるカテ後カンファレンス&研修医カンファレンスでは、研修医が関与する症例プレゼンテーションと診療内容のチェックがあります。研修は、外来診療、病棟での入院患者に対する診療に加えて、心カテ、アブレーション、ペースメーカや植込み型除細動器（ICD）の手術、CT や MRI などの画像検査があります。循環器の 2 ヶ月間は、忙しいですが、指導医や上級医から多くのことを学べる期間になっていると思います。1 年目の研修でローテートした研修医が 2 年目でもう一度回りたいと思ってもらえる研修内容を目指しています。将来、どのような専門医を目指そうとも、循環器領域で身につけるスピリットやスキルは臨床医としての基盤になるものですので、頑張って研修してください。研修医の成長のため、できるだけサポートをします。

研修医の感想

- 循環器内科疾患のみならず、初診外来や救急外来を含めて内科的疾患を全体的に診られ、ファーストタッチの機会が多く用意されていた点が良かったです。オープン制度で担当の専攻医が決まっており、質問しやすい環境でした。
- 心エコーを一对一で教えてもらえて勉強になりました。



循環器内科部長
渡邊真言



消化器・糖尿病内科

奈良県西和医療センター消化器・糖尿病内科は、スタッフ7名にて消化器領域全般および糖尿病の診療を行っております。

消化器領域では、上下部消化管疾患（食道、胃、十二指腸、大腸）、胆・膵臓疾患、肝臓疾患の初期治療、救急治療（吐血、下血、黄疸など）から最先端の高度医療に至るまで幅広く診療を行っております。4名の日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会・日本肝臓病学会の指導医・専門医が研修医の皆さんの指導にあたります。

消化器疾患に対する診療はもちろん、上部・下部内視鏡検査や腹部超音波検査などの検査手技のみならず、内視鏡的止血術、内視鏡的ポリープ切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術、ラジオ波焼灼術などの治療手技も研修可能です。さらに、胆膵領域の内視鏡検査・治療（ERCP、EUS — FNA）も研修を行う事ができます。

糖尿病領域では、教育指導および治療を積極的に行っております。特に24時間血糖測定を用いて、より厳格な糖尿病の個別治療を行っております。糖尿病診療の基本的な診療の研修が可能です。

将来の進路に係わらず、今後日常診療で一番多く接する消化器疾患および糖尿病を数多く経験することはとても大切なことです。笑いには厳しいですが、優しく丁寧な指導が好評な消化器・糖尿内科医が、皆さんの奈良県西和医療センターでの研修を心待ちにいたしております。



副院長
消化器・糖尿病内科部長
吉田太之

研修医の感想

- 内視鏡検査の件数が豊富であり、介助にも積極的に参加させていただけた点が良かったです。また、実際に模型を使って内視鏡検査の練習を自由にできる環境が用意されていたところも良かったです。
- 研修医1人に1人のオーベンが充てられており、基本オーベンとセットで動くため、分からないことが訊きやすくて良かったです。患者説明は知識の浅い研修医にもとても分かりやすいため、同席する機会がたくさんあって良かったです。



中央内視鏡部

研修医の先生の指導にあたるのは、内視鏡指導医3名・内視鏡専門医2名の計5名です。上部下部のスクリーニング検査から内視鏡粘膜剥離術(ESD)・内視鏡的載石術・痔腫瘍などに対する超音波内視鏡下吸引組織細胞診など幅広い内視鏡処置を毎日行っています。また、緊急内視鏡も積極的に受け入れており、内視鏡的止血術も随時行っております。昨年度は上部消化管内視鏡約 2,000 件・下部消化管内視鏡約 1,500 件・ERCP 約 200 件(それぞれ処置も含む)でしたが、平成 28 年度から検査施行医・検査室も倍増され、年々件数増加をしています。研修医のみなさんには、内視鏡診断・内視鏡処置などそれぞれのレベルにあわせて手技の習得に励んでいただいています。若いみなさんの力も借りて一緒に内視鏡診療にあたります。心よりお待ちしております。



中央内視鏡部部长・
消化器内科部長
森岡 千恵

呼吸器内科

現在は、呼吸器学会専門医2名、専攻医2名の体制で、日々の診療・研修医指導にあたっています。

呼吸器内科で対応することが多いのは何といっても肺炎です。その中でも入院適応になるのは誤嚥性肺炎が多いですが、呼吸器内科としての専門性が必要となるのは間質性肺炎で、器質化肺炎、薬剤性肺炎、膠原病関連の間質性肺炎が増えています。COPDは診断、評価から始まり、患者教育、吸入指導、呼吸リハビリ、最終的には在宅酸素やNPPVの導入を行います。気管支喘息の評価のために呼気NO検査を導入、睡眠時無呼吸症候群の精密睡眠ポリグラフィーやCPCP導入も積極的に行っています。悪性腫瘍に関しては、診断をつけ当院腫瘍内科と検討し、今後の方針を決定します。研修医の先生方には、数名の入院患者さんを担当してもらい、毎日上級医とカンファレンスを行いつつ、自主性をもって検査のオーダーと解釈、治療方針の決定、効果判定、退院の判断、退院後の地域連携への移行をおこない、一人一人の患者さんに対し一貫して責任を持った医療を大切にもらっています。呼吸器内科を目指しているわけではないという研修医の方々にも、基本的な呼吸機能検査の判定、市中肺炎の対応などとともに、医師と患者さん家族さんとのかわりに関して学んで頂きたいと思います。

皆さんと共に発展していきたいと思います。お待ちしております。



呼吸器内科部長
田村 緑

研修医の感想

- 病棟管理や外来対応など、研修医が中心になって対応する場面が多く用意されているため、コメディカルスタッフとの関係性を築ける環境が良かったです。また、複数の受持ち患者の状態を把握する必要があり、マルチタスクの進行を経験できました。

各診療科の特色

脳神経内科

脳神経内科は週 3 回外来が開かれており、治療困難な症例や悩んでいる症例のコンサルトが可能です。各々の領域の専門医による指導を受けることによってこのような領域の患者さんの治療方針を学びます。

小児科

当院小児科は奈良県の基幹病院であり、質の良い医療をこどもに提供し、こどもと家族が安心して生活ができるように手助けをしていくことを基本としています。小児科はこどもの総合診療科であり、小児科医はこどもの病気の全体を診ることが基本です。小児一般診療から専門分野まで幅広く知っておく必要があります。地域の医療機関からの多数の紹介があり、様々な分野の症例を経験することができ、さらに小児救急 2 次輪番に参加しており、小児の救急初期対応を研修することが可能です。



小児科部長
吉澤弘行

症例検討会を小児科医・看護師と一緒に定期的に行っています。多種職とのカンファレンスは様々な角度から症例を検討するので、連携を深め、スタッフのスキルアップの向上につながることを学べます。小児は主訴を上手く言うことができないことが多く、「なんかおかしい」という臨床的直観が大事になってきます。教科書では学ぶことが難しいですが、マンツーマンで指導することで、そのスキルを身に付けてもらいます。

研修医の感想

- 小児科特有の手技や病棟管理を積極的にさせていただきました。また、小児科当直に参加できるため、けいれんなど夜間に多く起こる疾患も経験することができました。
- 心身症の外来を多く見せて頂けて良かったです。1 ヶ月で担当した患者数は少なかったですが、川崎病や喘息など、様々な症例を診ることができました。



外科・消化器外科（がん治療センター）



副院長・がん治療センター長
石川博文



外科・呼吸器外科部長
上野正闘



消化器肝臓・胆のう・膵臓
外科担当部長
山戸一郎



消化器大腸外科担当部長
檜塚久記

奈良県西和医療センター外科は週4回手術できる環境にあり、年間 400 例を超える消化器・一般外科領域の手術を行っています。手術の内訳としては胃癌、大腸癌、直腸癌、肝胆膵癌、乳癌などの悪性疾患、胆石、鼠径ヘルニア、内痔核、炎症性腸疾患などの良性疾患に加え、虫垂炎、腹膜炎、腸閉塞などの緊急手術があり、バラエティに富んだ手術と周術期管理を学んでいただけます。

手術には開腹手術と鏡視下手術の2種類がありますが、最近の画像処理と器具の改良はめざましく、大腸ESDや腹腔鏡下手術などの鏡視下の治療には大きな可能性があります。当科のモットーとして、消化器内科、放射線科と密に連携を取り、いかに消化器がんを低侵襲に治療できるかを日々検討し、精進を重ねています。当科では 50% 以上の手術症例は鏡視下手術によりますので、最新のモニター画面上あるいはビデオ編集により、手術手技を繰り返し学ぶことができます。またトレーニングルームも完備されています。外科系の諸科と連携して、地域の基幹病院としてより高度な治療を要する手術も行われています。

当科では経験豊富な4人の指導医・専門医と2人の若手専攻医により指導させていただきます。自由闊達な手術をみると外科の醍醐味とは何かがわかると信じています。（当科のHPもご参照下さい）

（石川博文）

当科研修期間中は、悪性疾患患者（待機手術）、良性疾患患者（待機手術）、良性疾患患者（緊急手術）における術前後の患者管理について学ぶことができます。また、数多くの手術への参加と術後創部処置を経験することで、外科研修の基本である縫合結紮から外科的基本手技の習得を目指していただきます。習熟度によっては、虫垂炎や鼠径ヘルニアの手術を術者として達成していただくことも可能となりますので、是非挑戦してください。

（上野正闘）

研修医の感想

- 助手として手術に参加できる環境が良かったです。専攻医の先生が、丁寧に糸結びや縫合の種々を教えてください、また術後管理についても講義していただい、手術中だけではなく、座学としてもフォローしてい

各診療科の特色

ただけるのは貴重だと思います。

- カメラ持ちや縫合などさせてもらえることが多く、チームの一員として診療に参加しているという感じがあったのが良かったです。





各診療科の特色



整形外科・人工関節センター

整形外科は骨・軟骨・筋・靱帯・神経などから構成される運動器の疾患や外傷を対象とし、治療を行う専門分野です。当院整形外科でも慢性疾患から外傷まで幅広く診察を行っています。平成 29 年 4 月より人工関節センターを開設しており、当院の研修では人工関節のスペシャリストが診断、手術適応の判断、術前計画や手術のピットフォール等を実際の手術症例に沿って丁寧に指導いたします。また手の外科や足の外科、関節リウマチについても専門的治療を経験することが出来ます。指導医指導のもと多数の症例で執刀してもらうことが可能です。教科書では学べない経験を積み是非奈良県西和医療センターにいらしてください。



整形外科部長
寺西朋裕



ナビゲーションシステムを使用した人工膝関節置換術（当院）



肩腱板断裂鏡視下修復術（当院）

脳神経外科

脳神経外科では、超急性期の脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍、脊椎・脊髄疾患、機能外科（顔面けいれん、三叉神経痛）に対する外科治療や検査（脳血管撮影、脊髄造影）、並びに中枢神経領域の局在診断、神経放射線診断といった専門医養成プログラムに参加するのみならず、プライマリケアに必要な脳神経外科的知識と対処法（気管切開、中枢ルート確保、気管内挿管等）を習得する研修ができます。2名の指導医のもと脳神経外科手術（緊急手術を含む）や病棟処置に積極的に取り組み、常に患者さんの目線に立った周術期管理を徹底的に習得してもらいます。また、研究会や学会にも積極的に参加して最先端の脳神経外科治療に接してもらい、中枢神経領域疾患の診方、治療を身につけることを目標とします。下記に到達目標の経験手術例を挙げておきます。ぜひ脳神経外科で研修しましょう！

1 年目 神経局在診断、神経放射線診断の習得

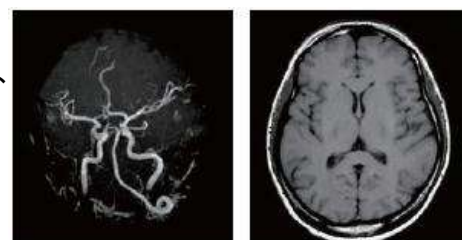
病棟処置（手術創部消毒、抜糸、各種ルート確保、脊髄ドレナージ）

穿頭術（慢性硬膜下血腫、脳室ドレナージ術）の執刀医、助手、開頭術の助手、救急外来での初期対応、各種検査の助手

2 年目 開頭術（頭部外傷疾患）の執刀医、脳内出血血腫吸引術の執刀医
各種顕微鏡手術の助手、脳血管撮影の検査担当



脳神経外科部長
弘中康雄



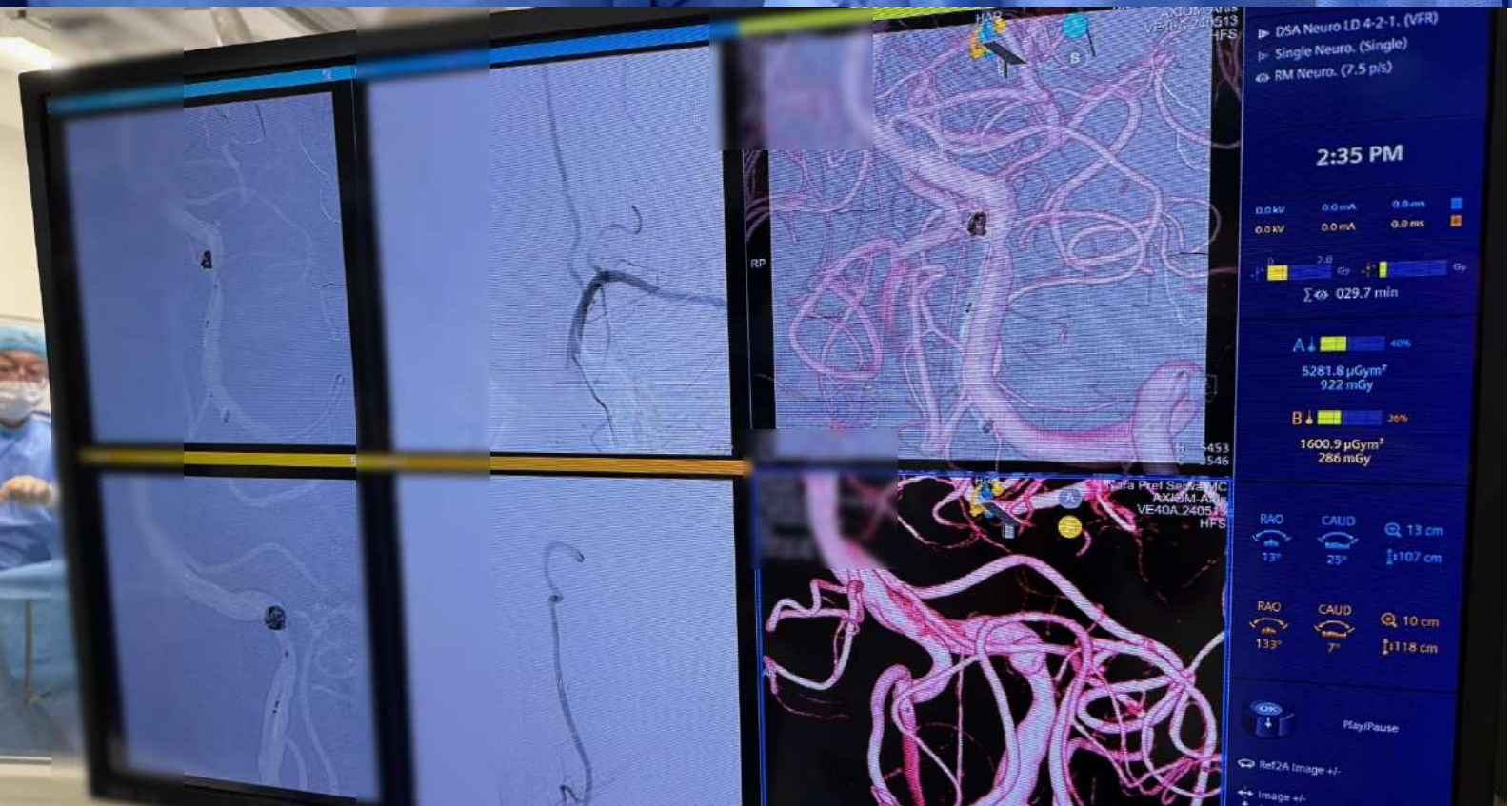
研修医の感想

- 症例も豊富で、経験した手技も本当に多かったです。出血や梗塞の初期対応も多く経験させていただき、勉強になりました。個人的には一番大変でしたが、ぜひローテーションしてもらいたい科の1つです。





各診療科の特色



集中治療科

2023 年 7 月から開設となり、2024 年4月からは専門医研修施設の認定を取得しています。

集中治療科は、常時集中治療室(ICU/CCU)に専従し重症患者さんの治療に専念する専門の診療科です。対象としては、集中治療室に入室となった、全ての診療科(内科や外科などの領域・専門科を問わず、また乳児から成人まで、院内全ての重症患者さん)になり、当院では、high intensity model である、Mandatory critical care consultation type(主治医は各診療科主治医のままで、すべての重症患者さんが集中治療医の診察を受けられる)の体制で診療しています。

当科の研修では、入室している重症患者さんの全身管理の仕方について、指導医とマンツーマン体制で学んでいただくことができます。

具体的には、バイシステムと呼ばれる診察手法、また生理学、酸素需給バランスを意識した論理的な病態把握、またエビデンスに基づく治療について、常に質疑応答をしながら学べます。また、救命のための蘇生法、臓器保護に対する対応と知識、医療機器や治療薬の使い分け、超音波検査や気管支鏡などの処置も、レクチャーし技術として身に着けられるようにします。そして、退院した後の患者さんの生活を守るために、認知機能や心理的ストレス、筋力低下などの合併症を最小限に抑え、QOLの改善やより早期の回復、また社会復帰へと貢献できるよう、各専門科の医師、歯科医師、看護師、薬剤師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、臨床工学技士、管理栄養士などの院内全ての医療スタッフと協働し、適切な時期にかつ、可能な限り早期の治療が行われるように尽力する方法を身に着けていただきたいと思います。その他、RRS(Rapid Response System(院内迅速対応システム))の先駆けとして、様々な各科の先生の相談や病棟の相談にも対応できるように出動することもあります。

重症な患者さんという怖いや大変そうというイメージが強いと思いますが、初めから全てできる人はいませんので、1から丁寧に一緒に学んでいけたらと思います。



集中治療科副部長
中村通孝



皮膚科

すべての皮膚疾患に対応し、地域に根ざした診療をしています。少人数ならではのマンツーマン指導のもと、common disease から稀な疾患まで幅広く経験できます。外傷の処置や縫合・小外科のほか、形成外科との連携で全身麻酔下の外科的手術も学ぶことができます。フットケア外来などの専門外来での診療も経験していただきます。

研修医の感想

- 予診や外来手術など研修医の参加できる場面が多く、皮膚科疾患について経験しながら学ぶことができました。頻度の高い疾患も多く経験できるため、普段の病棟管理での処方など、応用できる場面が多い研修となりました。
- 初診の担当をさせて頂き、多くの症例を経験できました。形成外科も含め、手技が多く、面白い経験ができました。



皮膚科
笥祐未

形成外科

形成外科では体表面の良性、悪性腫瘍、熱傷や顔面骨骨折などの外傷、体表の先天奇形など小児から高齢者までの幅広い疾患を扱います。

外来での小手術から他科との合同で行う再建手術など様々な外科手術を経験できます。

また外傷や褥瘡などの様々な傷に対する創傷治療も行っていますので、他科診療においても役立つ知識を身につけることが可能です。



形成外科部長
真柴久実



泌尿器科

排尿障害は地域医療、専門医療を問わずすべてに共通した問題です。初期研修で排尿障害を理解することは、どのような専門領域に進む場合でも必ず役立ちます。泌尿器科は、小児から高齢者までの疾患を扱う上、保存的治療、手術治療、抗癌剤による化学療法、緩和医療などその治療の範囲も広いのです。

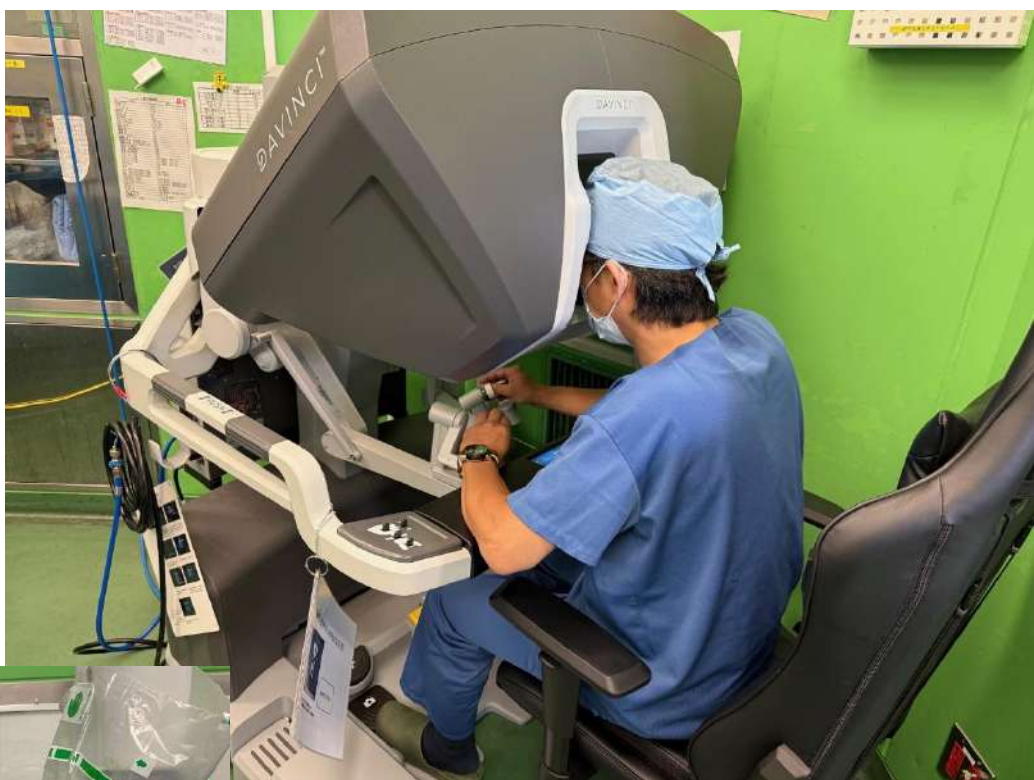
外科的治療としては、開腹手術、体腔鏡下手術、経尿道的手術、インターベンション手術などあらゆる方法での治療が経験できます。



泌尿器科部長
大山信雄

研修医の感想

●内科・外科と多彩であり、大変興味を持つことができました。5月の段階でオペレーターをさせていただき、また、長時間の大手術にも参加できて良かったです。



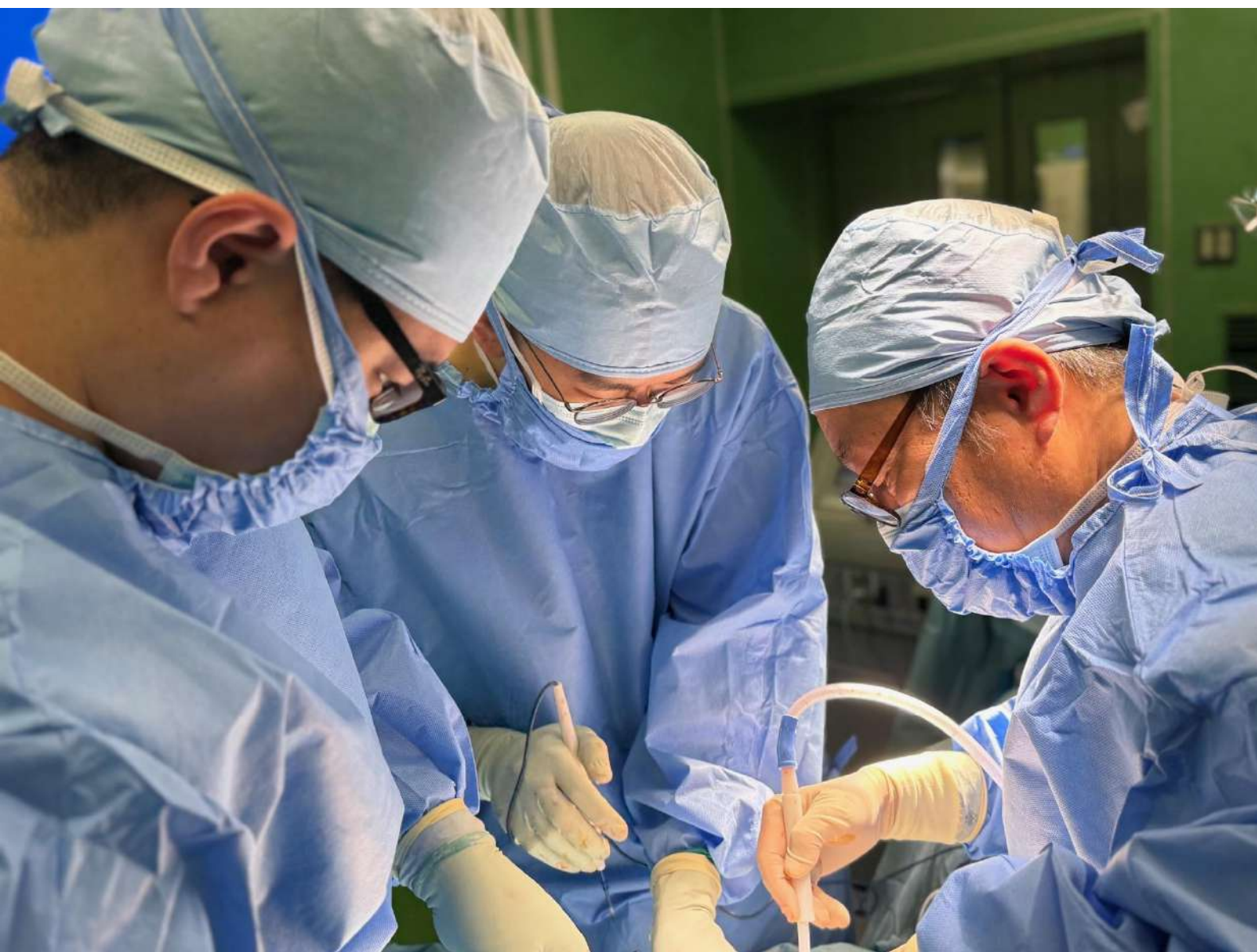
乳腺外科

奈良県西和医療センターの乳腺外科は 2022 年 10 月に開設された診療科です。乳癌をはじめとした乳腺疾患全般を扱っており、乳房の症状で受診した患者に対し、マンモグラフィーや超音波検査を用いた診断、針生検などによる病理診断を行い、悪性と診断された場合には手術、薬物療法などの初期治療を行います。再発患者の薬物療法や緩和ケアも行いますので、乳腺疾患の最初から最後までを全て扱うことになります。

また、化学療法を行う患者の中心静脈ポート造設や、他科からのリンパ節生検の依頼なども受けています。乳癌は日本人女性で最も多い癌であり、集学的治療で治癒する率の非常に大きな疾患です。検診や診断、手術、薬物療法、緩和ケアに至る全てを行うこともできるし、その中の一つの分野に特化して仕事をすることも可能な領域ですので、興味のある方はぜひ一度経験してみてください。



乳腺外科部長
高島 勉





産婦人科

産婦人科は、女性のライフサイクル全般を扱う診療科です。産科と婦人科は対象患者が異なるために、別個の分野と思われがちです。しかし実際の臨床においては、双方は密接に関連しており、いずれの分野についても学ばなければなりません。産科実習では、Low risk 妊婦の妊婦健診、産後健診を通して、正常妊娠の管理だけでなく、内科合併症の管理、妊娠・授乳と薬など、他科診療においても重要な知識を身につけることを目標としています。経膈分娩、帝王切開術、および High risk 妊婦の研修は、当科が医療連携を行っている奈良県総合医療センターをはじめとした高次施設で行います。

婦人科実習では、腫瘍、内分泌異常、更年期障害などの common disease について、外来診療や手術を通して専門的知識の修得をめざします。

先生方にとって有意義な産婦人科研修を実現いたします。



産婦人科部長
春田祥治



耳鼻咽喉科

毎日の外来診療で耳鼻咽喉科領域全般のあらゆる症例の経験ができます。多種類の精密検査機器が設置されているため難聴やめまい疾患の原因精査に関しても学ぶことができます。

手術治療では、耳疾患、鼻疾患、咽喉頭疾患、頸部腫瘍疾患など幅広い経験ができ、指導医のもと、術者としての経験も積んでもらいます。



耳鼻咽喉科 舞踏
金田 宏和

研修医の感想

● 外来見学の際、耳鏡やファイバーなどの所見も一緒に診させて頂けたところが良かったです。また、甲状腺腫瘍のフォローも行っている為、穿刺手技やエコーの見学ができました。各症例に関して詳しく説明いただけるため、耳鼻科疾患について深く学ぶことができました。

リハビリテーション科

リハビリテーション医学とはさまざまな病態、疾患、外傷などにより生じた機能障害を回復し、残存した障害を克服しながら、人々の「活動を育む」医学分野です。リハビリテーションには、大きく、急性期リハビリテーション、回復期リハビリテーション、生活期リハビリテーションがあり、当科は急性期リハビリテーションを担います。急性期医療を行う様々な診療科をサポートする診療科ですので独自の病床を持ちませんが、早期からのリハビリテーションにより廃用症候群を予防し、機能回復の促進により入院期間を短縮し、患者さんがより早期により高い機能で社会復帰できるよう医療を行います。

リハビリテーション科自体は一般社団法人日本専門医機構が定める19の基本領域の1つであり、2018年度から新専門医制度に移行しています。リハビリテーション科専門医は「活動」に視点をおいて治療する専門家として重要な役割を果たしています。当院では2020年8月1日にリハビリテーション科が新設され、日本リハビリテーション医学会の専門医教育施設として未だ認定されていませんが、リハビリテーション科専門医の研修を希望する先生がいっぱいいましたら、奈良県立医科大学リハビリテーション科と協力し専門医研修を全面的にサポートさせていただきます。



リハビリテーション科 部長
岡本 悟志

放射線科

放射線科医の仕事の三本柱は、画像診断、IVR(画像下治療)、放射線治療ですが、当科では、これらのうちの画像診断(核医学を含む)とIVRを学ぶことができます。経験豊富な放射線診断専門医3名が指導にあたります。放射線関連機器は、一般撮影装置3台、マンモグラフィー1台、X線TV装置2台、CT2台(80列、320列)、MRI 1台(3T)、血管造影装置4台、RI装置1台と充実しています。これらの装置を駆使して、幅広い年齢層における急性疾患から慢性疾患まで豊富な症例を日常的に診断しています。当科で研修することにより、当院のほぼすべての診療科領域に関する広範な画像診断についての知識を習得することが可能です。また、経験豊富なIVR専門医の指導により、様々なIVR治療を経験することができます。外科・内科・泌尿器科との定期的な合同カンファレンスのほかに、読影室には、毎日気軽に各診療科の先生方が症例の相談にこられており、ひとりひとりの患者さんについて臨床所見と画像所見とを総合的に検討する機会が日常的に得られています。さらに、放射線科研修期間中には、オンラインでの奈良医大放射線科・関連施設合同の勉強会や、画像診断関連のセミナーなどへの参加を推奨し、画像診断・治療についての幅広い知識に触れるよう促しています。



放射線科部長
武輪 恵



研修医の感想

- 事前のヒアリングから、各々の要望に合わせて読影内容をコーディネートしていただけるため、自分の必要な読影を中心に周辺の関連疾患まで理解を深めることができました。また、放射線技師の下で、実際に画像を撮影したり、MRIの磁場を体験したりと、画像が出来上がるまでに関しても研修できたところが良かったです。
- 同じ疾患の画像をたくさん見ることができて、いろんなパターンを学ぶことができました。また、常に質問できる状況なので、分からないことをその場で解決できる点も良かったです。



麻酔科

手術麻酔を中心に全身管理を広く学ぶことができ、一般外科から脳神経外科、心臓血管外科、産婦人科をふくめた多様な麻酔管理を経験することができます。気道確保、気管挿管、人工呼吸管理、静脈ルート確保、観血的動脈ライン確保、中心静脈ルート確保、脊髄くも膜下麻酔穿刺などの手技を学ぶことができます。麻酔薬・循環作動薬の使用法、輸液・体液バランスの維持、酸塩基平衡などについて学び、ペインクリニックや緩和医療についても学識を広げてもらいます。



麻酔科部長
加藤晴登

研修医の感想

- 1 回目のローテートでは挿管、2 回目のローテートでは術中管理と、研修内容で重点を置く手技を分けて頂けるため、短期間で集中的に手技の精度を磨くことができる環境でした。また、マンツーマンで丁寧な指導も受けられるため、手技の上達速度も速かったように思います。
- 手技に重点を置いたプログラムであり、経験できる件数も多く、手技が身につけやすかったと思います。良くないところは良くないとはっきり指摘してもらえる点も良かったです。



各診療科の特色



集学的循環器病治療センター



当センターでは全身の循環器疾患を各診療科の枠を超えて治療、研究することが目的です。

中心となるのは循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、放射線科、麻酔科ですが、循環器疾患の周辺病変や関連疾患も治療しますので、実際には病院全体での活動となります。

また、患者さんの治療に際し、医師のみでなく、看護師、薬剤師、臨床工学技士、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、言語聴覚士、作業療法士、管理栄養士・メディカルソーシャルワーカーをはじめとする関係する医療スタッフが、患者さんの情報を共有し、緻密な連携のもと、高度な集学的治療を組織横断的に行い、よりよい医療を提供いたします。

研究面では基礎的、臨床的なものに一体的に取り組み、その成果を、国内、世界へ向け発信してまいります。奈良県西和医療センター集学的循環器病治療センターは、世界のトップレベルの質の高い、いい治療を、地域の皆様、更に奈良県内、県外などの多くの皆様方へ提供に努めています。

